

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



10月号 発行 平成25年 10月 30日



新しい運動が始まりました

県では、平成25年3月に策定されました「ふくしま農林水産業新生プラン」を推進するため、新たに「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」を展開することになりました。この運動は、「食の安全・安心運動」、「生産再生運動」、「風評払拭・消費拡大運動」、「情報発信運動」の4つの運動から構成されています。

この運動を推進していくため、生産者自らの積極的な取組はもとより、生産から流通・消費に至る様々な立場の人が一体となり、その思いと力をつにして新たな運動に取り組み、県民一体となって本県農林水産業の復興・再生を加速することとしました。

「いわき農林水産ニュース」は、いわき地域の農林水産業の復興・再生のための新たな運動の一環として、これからも情報発信しますので、よろしくお願いします。

〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の9月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング調査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の調査結果(9月)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
6品目 23検体	3品目 4検体	0品目 0検体	9品目 27検体

調査した9品目27検体のうち、6品目23検体は、検査機器の検出限界値以下でした。

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

菌床きくらげ(施設) 1	菌床なめこ(施設) 2
原木しいたけ(施設) 2	菌床しいたけ(施設) 2
牛肉 9	原乳 4

基準値内で検出されたのは3品目4検体で、基準値を超えたものではありませんでした。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

	スタヂ	カボス	カキ
検体数	2	2	3
検出限界値以下	0	1	2
基準値内	2	1	1

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、9月末までの検査点数51,079点のうち、99.98%の51,071点が測定機器の測定下限値未満、8点が基準値内で検出が確認されましたが、基準値を超過したものはありません。

(表4) 玄米(平成25年産)検査状況(9月末現在)

	測定下限値未満(<25 ^μ クレル/kg)	25~50 ^μ クレル/kg	51~75 ^μ クレル/kg	76~100 ^μ クレル/kg	100 ^μ クレル/kg超	計
検査点数	51,071	8	0	0	0	51,079
割合(%)	99.98	0.02	0	0	0	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

なお、9月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、表5のとおりです。

(表5) 出荷制限及び出荷自粛品目(9月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ゆず
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらのめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛	畜産物	無
	山菜	さんしょう(野生のものに限る。)

〈一般情報〉



今年も続きます！ 米全袋検査開始

9月20日（金）から、いわき市内全域において平成25年産米の全量全袋検査が開始されました。検査に先駆けて、9月6日（金）にJAいわき市本店にて、放射性物質検査を行う検査員に対する業務研修会を開催しました。

全量全袋検査は、基準値を超過した米の流通を防ぎ、消費者の皆様へ安全安心な米をお届けするために実施しています。今年度は、放射性物質の吸収抑制対策として、基肥施用時の塩化カリウムの追加施用を推進し、生産者に20kg/10aの塩化カリウムが配布されました。10月15日現在、約20万点の検査が行われましたが、基準値を超過した米は検出されていません。

いわき市産の米を安心して消費者の皆様にご食べていただけるよう、安全な米の生産と適正な検査を継続して行っていきます。



（研修を受ける検査員の皆さん）



小学生の創作意欲あふれる 力作が並ぶ

9月21日（土）から22日（日）の2日間、「いわき市児童生徒木工工作コンクール」の入賞作品が、いわき駅前のL A T O V [ラトブ]において展示されました。このコンクールは、木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を目的とし、福島県木材青壮年協会いわき支部の主催で毎年開催され、今年で19回目となります。

コンクールにはいわき市内の小学校28校より804点の作品の応募があり、展示会に先立ち行われた審査会の結果、工作技術やデザインに優れ、木の持つ質感が活かされた作品42点が、いわき市長賞をはじめとした各賞に入賞しました。

なお、いわき農林事務所賞には、市立平第四小学校3年生の石井颯季さんの「とりのランプシェード」、市立好間第一小学校6年生の蒲生雄太さんの「ウッドローズ」の2作品が選ばれました。

このコンクールの優秀作品は、10月25日（金）に開催される福島県児童生徒木工工作コンクールに出品されます。



（石井颯季さんの作品「とりのランプシェード」）



（蒲生雄太さんの作品「ウッドローズ」）



いわきの農産物をPR 農林水産物キャンペーン

すっかり秋らしくなった9月28日（土）、市内唯一の道の駅である「道の駅よつくら港」において、農林水産物キャンペーンを実施しました。

このキャンペーンは、県産農林水産物の風評を払拭するために、東日本大震災の直後である平成23年4月から実施しているもので、今年度は、地域の実情・特性を生かし、3回実施する計画です。8月7日（水）に「たいら七夕まつり」で行ったキャンペーンに続き、今年度2回目の実施となりました。

当日は、毎月第4週末に開催されている恒例の「よかっぺ市」の日ということもあり、大青空市の一角に設けられたコーナーで、安

全・安心な農林水産物の生産・流通体制を
 図っている福島県産、特にいわき産の農産物
 をPRしたほか、「食べて応援しよう！」を
 テーマに、市内で生産されたフルーツト
 マト、イチジク、サツマイモ、葉付きショウガ
 をプレゼントしました。日ごろ利用している
 方のほか、道の駅を訪れた家族連れ、団体客
 からは、「流通しているものは安全だから応
 援しています」「いわきではいろいろな農産
 物ができるんですね」といった声が聞かれ、
 秋の実りを嬉しそうに受け取っていました。

県では、今後とも、消費者、食産業関係
 者、農林漁業者の皆様と一体となり、風評の
 払拭に向けて取り組んでいきますので、食べ
 て応援してください。



(農産物を食べて応援しよう!)



(大好評のキャンペーン)

被災地へと「希望のかけ箸」 グッドデザイン賞受賞

10月1日(火)、今年度の「グッドデザ
 イン賞2013」の発表があり、いわき市川
 部町の(株)磐城高箸が製造した割箸「希望の
 かけ箸」が、グッドデザイン賞を受賞しました。

(株)磐城高箸は、地元のスギ間伐材を原料
 とするこだわりの割箸を製造しており、20
 11年には全国間伐・間伐材利用コンクール
 において間伐推進中央協議会長賞を受賞する
 など、地元間伐材を利用した取り組みは全国
 的にも高く評価されています。

今回、グッドデザイン賞を受賞したのは、
 東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県、
 宮城県、福島県の被災3県で育ったスギ間伐
 材を使用した3膳を一組にした割箸で、この
 割箸が復興の架け橋となり、自然豊かな東北
 の地が、再び人々の希望を实らせる場所とな
 るよう願いを込め、「希望のかけ箸」と名付け
 られています。売上の一部は、被災地に寄付
 されており、割箸のデザインとともにそれら
 の取り組みもグッドデザイン賞審査委員から
 評価されています。



(被災3県のスギを使用した「希望のかけ箸」)

ふくしまの「食の力」が集結 ごちそうふくしま満喫フェア

10月5日(土)、6日(日)の2日間、
 ふくしま・地域産業6次化推進協議会と県が
 主催する食の祭典「ごちそう ふくしま 満
 喫フェア2013」が、福島市のJRA福島
 競馬場・馬場内広場で開催されました。

このイベントは、本県の豊かな農林水産物
 や特色ある6次化商品などの「食の力」を県
 内外に発信し、併せて東日本大震災と原子力
 災害からの復興を図ることが目的です。

会場には、130店を超える県内の食関係
 者が出店し、いわきからも、福島県中小企業
 団体中央会が開発支援を行っている「マコモ
 タケ」を使った商品の販売等をする菜花園を
 はじめ11店が参加し、自慢の6次化商品
 を通じていわきの食の魅力を発信しました。

また、会場内に設けられた特設ステージ
 では、お笑いタレントのパンクブーブーや歌手
 の小林幸子さんのライブなど様々な催しが行
 われ、フェアを盛り上げました。

フェアは、平成22年度から始まり今回で
 4回目ですが、福島競馬場での開催は初めて
 で、福島市内の信夫ヶ丘緑地公園とあぶくま
 親水公園に設置された臨時駐車場から無料
 シャトルバスが運行されました。あいにくの
 天候にもかかわらず、2日間で約35,000
 人の来場者で賑わい、大盛況のうちに幕
 を閉じました。



(盛大に開会式が行われました)



(いわきの6次化商品をPR)



マコモタケ：
イネ科の多年草で、肥大した茎の部分は、タケノコやホワイトアスパラのようなシャキシャキ感と香り豊かな甘みがあります。低カロリーで食物繊維も豊富で煮てよし、焼いてよし、生でよしの万能野菜です。

**「田舎で農業体験してみませんか」
グリーン・ツーリズムを紹介**

10月5日(土)、6日(日)の2日間にわたって、小名浜港アクアマリンパークで「いわきサンシャイン・フェスタ2013」が開催されました。これは、地域の賑わい創出及び震災から復興しつつあるいわき市の元気を発信し、世界にアピールしていくこと、いわき産の農産物の需要活性化を目指すものです。

フェスタでは、太平洋諸国舞踊祭、いわき大物産展、いわきおかずマルシェ、ふりかけグランプリinいわき、いわき技連・匠の技コーナー、いわき地球市民フェスティバル、いわき産農産物収穫祭など多くのイベントが同時開催され、市内外からの多くの来場客で賑わっていました。

いわき農林事務所は、第12回全国グリーン・ツーリズムネットワーク福島大会及びいわき市内のグリーン・ツーリズム施設や活動状況を、いわきの里川前ふるさと体験交流委員会とともにPRしました。「『グリーン・ツーリズム』という言葉は初めて聞いたが、機会があれば積極的にグリーン・ツーリズムの活動をしたい」「『グリーン・ツーリズム』とは知らなかったが、体験活動は好きなのでよく参加している」などの声が聞かれました。



(新鮮な野菜に足を止める来場客)



(いわきのゆるキャラが勢揃い)

**黄金色の稲穂を刈り取り
田んぼの学校(赤井小)**

10月8日(火)、いわき市立赤井小学校(5年生58名)において、県のふくしまの農育推進事業「田んぼの学校」の第5回目となる「稲刈り」を行いました。

青空の下、地元協力農家の根本俊男さんの指導で、児童たちは元気いっぱい稲刈りに励みました。開会式では今と昔とで収穫・乾燥方法が違うことや、昔ながらの乾燥方法も日本海側と太平洋側では稲の干し方に違いがあることを学びました。

稲刈りでは根本さんから「鎌をしっかりと握り、自分も周りの人もケガをしないよう注意するんだよ」と指導を受け、たわわに実った稲を次々と刈り、棒杭に刈り取った稲束を積み上げる作業を行いました。終了後はかかしを移動し、雀の食害防止を図りました。

児童からは、「はじめての経験で、初めは難しかったけど、慣れてきたら簡単に刈ることができた」、「稲刈りが早いと褒められて嬉しかった」と感想があり、予定よりも早い時間に無事活動を終えることができました。

11月には脱穀作業と収穫祭を行う予定です。



(指導を熱心に聞く児童たち)



(慣れない作業におっかなびっくり)



(ひとりで何束持てるかな)



(棒がけまでしっかりやりました)



県学校関係緑化コンクールで 田人二小と永井中が知事賞を受賞！！

10月11日(金)、「第64回福島県学校関係緑化コンクール」の審査会が福島市で開催され、いわき市からは学校林等活動の部で市立田人第二小学校、学校環境緑化の部で市立永井中学校がそれぞれ知事賞に選ばれました。

県学校関係緑化コンクールは、学校林等活動の部と学校環境緑化の部の2部門があり、今年度のコンクールには、小学校12校、中学校3校が参加しました。

市立田人第二小学校は、地域住民等の協力を得て学校林を活用した森林環境学習や体験学習に積極的に取り組んでおり、その活動成果を他校の児童や地域住民に発表するなど交流を図っています。

また、市立永井中学校は、既存の花壇に加え、校庭周辺に草花を植えたり、花壇のデザインを生徒から募集したり、伐採木を活用した樹名板を設置するなど、積極的に学校内の環境緑化に努めています。

審査結果(知事賞)
 学校林等活動の部(小学校)
 いわき市立田人第二小学校
 学校環境緑化の部(小学校)
 伊達市立富成小学校
 学校環境緑化の部(中学校)
 いわき市立永井中学校



(ネイチャーゲーム[田人二小])



(花壇手入れ[永井中])



いわき地区試験操業開始 8魚種水揚げ

9月26日(木)に予定されていたいわき地区の試験操業は、台風の影響により延期が続いていましたが、10月18日(金)によりやく操業することが出来ました。

これまでのモニタリング検査から、安全が確認されている魚種のうち、16種を試験操業の対象としていますが、季節性等を考慮し、8魚種を漁獲する計画で出漁しました。

当日は、台風通過後でうねりが残っていたこともあり、当初予定していた数量は獲れませんでした。約2年半ぶりの水揚げということもあり、市場は、活気で満ちていました。獲れたのは、いわきの魚「メヒカリ」をはじめ、タコ類やスルメイカなど1,282kgで、いわき市の中央市場はじめ、県内の各市場に出荷されました。

今後も週1回のペースで出漁する予定ですので、スーパーなどで見かけた際には、新鮮な福島産の魚をぜひご賞味ください。



(約2年半ぶりの水揚げ)



(市場への出荷を待つ新鮮な魚)

平成25年度第2回いわきいちごセミナーを開催!

10月22日(火)、今年度2回目となるいわきいちごセミナーをJAいわき市夏井支店で開催しました。イチゴ生産者やイチゴ栽培に興味がある方々、54名が参加しました。

今回は、「腰痛も軽減?高設栽培について」と「予防が大事!病虫害防除対策」をテーマに開催しました。高設栽培については、導入にかかるメリット、デメリットを理解していただき、現地ハウスでは、メーカーからシステムの説明がありました。

病虫害防除については予防が第一であることから、生産者の方々は、農薬の適正使用や栽培履歴記帳の徹底などについて真剣に聞きながら、部会員全員で一丸となり取り組むことを確認しました。

また、現地ハウスを見学した後は、新規作付希望者を対象に、栽培を開始したばかりの生産者から経験談をお話ししていただき、活発な意見交換となりました。

今後は、新規作付希望者の個人面談等を関係機関と連携しながら開催するなど、新規作付につながるよう支援していく予定です。



(熱心に聞き入る参加者)



(活発な意見交換が行われました)

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（11月は8日（金）、18日（月）、28日（木））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介いたしますので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。

また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

1 一膳（平字童子町）

地産地消メニュー、実施日：焼肉、焼魚（8日、28日）、
エビのチリソース炒め（18日）、
ヒレカツ（18日）

説明：副菜にいわき産のハクサイ、カボチャ、チンゲンサイ等を使用しています。

2 いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

メニュー： 注文弁当 日替わり弁当 惣菜

説明：いわき、福島県産の安心・安全な食材をふんだんに使用しています。

実施日： 月～金曜 毎日

店舗からの情報：コロッセフェスティバル（11月3日、茨城県龍ケ崎市）、
いわき物産展（11月16、17日、平（イトーヨーカドー））
に出店予定。

いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

3 農林水産物モニタリング情報

(1)モニタリング情報検索

(2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」

及び「原発事故」からの

復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

いわき農林水産ニュース

